

子どもの問題に向き合おう！

2 エピソード

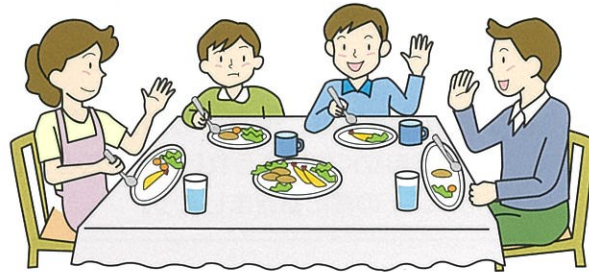
健一の友達とのトラブル

いつものように、健一は仲の良い友達の伸也と学校に行きました。休み時間になって、今度の休日に何をしようかと話していました。

健一 「今度の日曜、映画でも見に行こうか」
伸也 「そうだね。それじゃ何人が誘って行こう」

映画に行く朝になって、健一は急にお腹が痛くなり、行くことができませんでした。
次の日、学校へ行ってみると、友達の様子が何だか変です。伸也をはじめ何人かの友達が話をしてくれなくなりました。

健一 「昨日はゴメン。急にお腹が痛くなって映画に行けなかったんだ」
伸也 「……………」
健一 「伸也、映画のことで怒ってるの？」
伸也 「……………」



数日後、家庭での夕食時

この頃、健一の様子がおかしいので、母親が尋ねました。



「健一、
どうしたの？」

(母)

すると、健一は、家族にこれまでのことを話しました。家族からは色々な意見がでました。

「それは健一が悪いわよ。
急にお腹が痛くなったから行けないって、
何で伸也くんと言わなかったの？」



(母)

「それ位で、無視するなんて、
所詮それだけの友達だったんだよ」



(兄)

「お父さんだったら、
みんなにしっかり理由を言って、
謝るよ」



(父)

…………… その後も、家族の会話は続きました。

グループワーク

1 エピソードについて考えて下の欄に書きましょう。

※健一、伸也、母親、父親、兄の立場になって、それぞれの気持ちを考えてみましょう。

健一：

伸也：

母親：

父親：

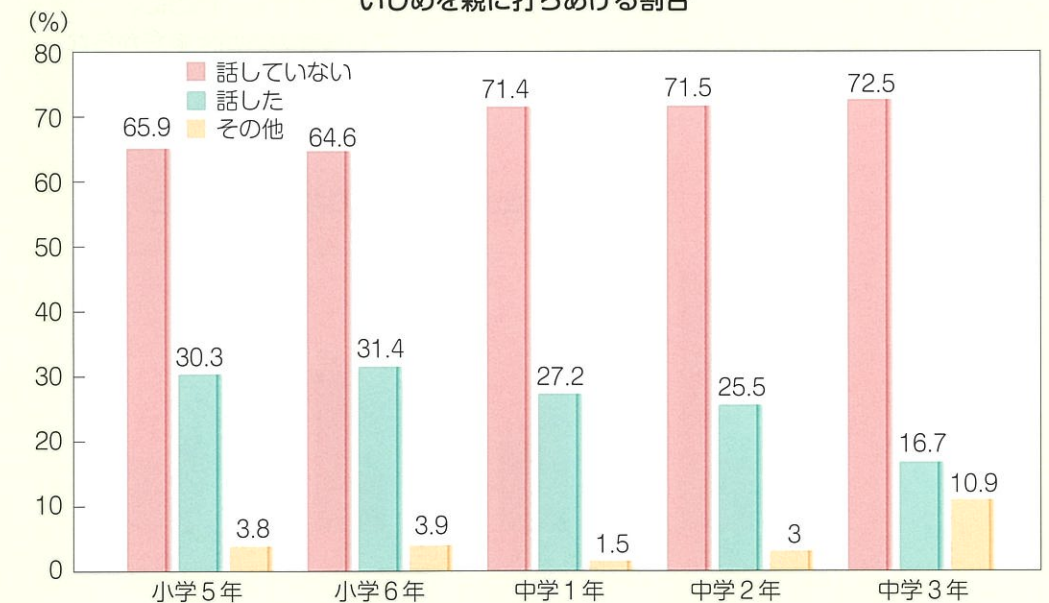
兄：

※あなただったら、健一にどのように言うでしょうか。

※子どもが困っている問題に対して、親のとるべき対応と役割についてどのように考えますか。

参考資料

いじめを親に打ちあける割合



※出典：森田・滝・秦・星野・若井編著「日本のいじめ」(平成11年)

親を学び伝える学習プログラム

富山県教育委員会 生涯学習・文化財室
平成20年3月発行 平成24年2月増刷
〒930-8501 富山市新総曲輪1番7号 電話 076(444)3435